

NAGANO Prefecture GUIDE



長野県職員募集パンフレット

長野県で “未来のはじまり”を つくる。

長野県を、もっとおもしろいフィールドにしたい。
わたしたちは、そう考えています。

何かが生まれたり、育ったり、広がったり、繋がったり。
そんな出来事が、あちこちで起きたら、
長野県はもっと魅力的な場所になると思うんです。

そんな素敵な“未来のはじまり”を、わたしたちはつくります。

やりたいことがある人が一歩を踏み出せるように。
必要な人に必要なものが届くように。
大切な地域資源を次世代に残せるように。

「長野県で暮らせて良かった」と思う人を1人でも増やすため
さまざまな可能性を開き、創り、届けていきます。

あなたも一緒に長野県で“未来のはじまり”をつくりませんか。

目次

- 4 あなたと一緒に実現したい、長野県の未来
- 5 主な職種と業務内容
- 6 これからの長野県をどうつくる？
 - ・信州地域デザインセンター（UDC 信州）
 - ・信州 ACE（エース）プロジェクト
- 10 若手も活躍 技術系職種の働き方
- 12 本当に働きやすいの？長野県職員働き方改革・DXの最前線
 - ・DX推進課
 - ・かえるプロジェクト
- 14 県職員に聞いてみた！〇〇ベスト3
- 16 長野県職員のリアルデータ
- 18 よくある質問

知事から皆さんへのメッセージ

私たちは今、時代の大きな転換点に立っています。

気候変動に伴う災害の激甚化・頻発化、急激な少子化・人口減少に伴う産業や地域の担い手不足など、さまざまな課題が顕在化しています。一方で、技術革新が急速に進展し、コロナ禍を契機として人々の価値観やライフスタイルにも大きな変化が生じています。

こうした状況の中、長野県では令和5年4月、新たな総合5か年計画「しあわせ信州創造プラン3.0」を策定し「ゆたかな社会」の実現に向けた大変革への挑戦を始めました。

このような時代の大きな転換点において、県職員一人ひとりに求められるものは、県民の皆さんがどうすれば幸せになるのか、長野県が活力をもってさらに発展していくためには何が必要なのかを常に考え、多くの方々とコミュニケーションを取りながら、新しいことに果敢に挑んでいく姿勢です。

私たちとともに、新しい時代をここ信州から創っていこう、という熱い思いを持った皆さんを心からお待ちしております。

長野県知事

阿部 奇一

あべしゅいち

あなたと一緒に実現したい、 長野県の未来

さまざまな危機が押し寄せている現代。

「確かな暮らしを守り、信州からゆたかな社会を創る」ため、

長野県総合5か年計画「しあわせ信州創造プラン3.0」を推進中です。



長野県総合5か年計画の詳細はこちら！



主な職種と業務内容

▼行政職

行政

政策の立案や人事、予算、経理、広報活動、県税の徴収、国や市町村との連絡調整、福祉に関する相談など、担当する仕事は多岐に渡ります。異動によってさまざまな職務につき、幅広い経験を積むことも大きな特徴です。幅広い視野を持ち、どのような仕事にも対応できるゼネラリストであることに加えて、担当する職務については専門的な知識を持つスペシャリストとしての側面も求められています。

▼技術系などの専門職

デジタル

長野県DX戦略またはEBPMに関する企画立案・分析・調査・連絡調整・相談業務などを行います。

社会福祉

児童福祉をはじめとする福祉に関する各種ケースワーク、社会福祉に関する企画・指導、社会福祉施設入所者の生活指導などを行います。

心理

児童相談所等において、心理学的判定や、児童・精神保健に関する相談・助言などを行います。

電気・機械

中小企業支援に関する施策の企画・立案・実施、工業に関する技術相談・開発支援・試験研究、または電気・水道事業に関する企画・設計・施工管理、水力発電所等の新規開発、ダム等の保守管理などを行います。

化学

環境保全・気候変動対策に関する企画・指導・調査研究などを行います。

農業

農業の振興、農業経営の指導援助、農業生産技術の普及指導、農業に関する試験研究などを行います。

総合土木

道路、河川、都市環境、下水道などの社会資本や、土地改良、農道、農業集落排水などの農業農村の整備について、企画、設計、監督、施工、検査、維持管理などを行います。

建築

建築物に関する許認可、指導、誘導や県営住宅等県立施設の設計、施工管理などを行います。

林業

林業の振興、林業に関する知識・技術の普及指導、治山事業等に関する企画・設計・施工管理などを行います。

薬剤師

薬事監視、薬物乱用防止の啓もう、食品・生活衛生等に関する検査、環境衛生に関する監視などを行います。

保健師

精神保健・難病に関する相談、感染症対応、保健指導、家庭訪問などを行います。

管理栄養士

食生活・栄養状態の調査・指導・食育の推進、健康増進などを行います。

※「社会福祉」「薬剤師」「保健師」「管理栄養士」については、それぞれ「社会福祉主事」「薬剤師」「保健師」「管理栄養士」の資格・免許が必要です。

※掲載しているすべての職種について、毎年必ず採用試験が実施されるとは限りません。

これからの長野県をどうつくる？

アーバンデザインセンター (Urban Design Center) の略称であるUDCは、課題解決型=未来創造型まちづくりのための公・民・学連携のプラットフォーム。長野県では、2019年8月に新たな形のまちづくり組織や拠点として「UDC信州」が誕生しました。県職員としてどのように「まちづくり」に関わっているのか、話を聞きました。

地域の人たちが一番喜ぶことを考え、伴走する

県主導の「まちづくり」のプラットフォーム

— まずは「信州地域デザインセンター (UDC 信州)」について教えてください。

倉根さん UDC 信州は、公・民・学が連携した新しい形のまちづくり支援組織です。一般的には、市町村や民間の取り組みを県が支援するケースが多いのですが、長野県には人口が1万人を切るような自治体がたくさんあり「もっと県がベースを支えたほうがいいのではないか」という課題感から、まちづくりに特化したプラットフォームとしてUDC信州が設立されました。

宮田さん センター長、副センター長には東京大学や信州大学の先生をお招きしています。長野市の善光寺中央通りに拠点を構え、常駐しているコーディネーターには、県職員だけでなく民間採用の職員もいますし、僕自身はUR都市機構から出向してきています。

地域の人々が何を望んでいるのか

— コーディネーターの皆さんは、具体的にどのような業務をしているのですか？

羽生田さん 各メンバーに担当地区があり、私は主に大町市、千曲市と安曇野市を担当しています。たとえば、大町市の中心市街地に、素人目で見ても「寂しいなあ」と感じるようなシャッター街があるんです。とはいえ、私たちがいきなりガラッと変えることはできないので、まずは地域の人の声を聞いていきます。

倉根さん 「地域の人々が何を望んでいるか」をしっかりと調べてからプロジェクトを進めましょう、というのが大前提ですね。僕らが一方的に進めることはありません。たとえばアンケートを取って「未活用のスペースでイベントをやりたい」という声があれば、一緒に企画してみる。さらに「今回のイベントが定期的に開催され



たらどうですか？」と聞いてみて「私たちは静かに暮らしたいです」という反応だったら、何が出来るかをまた考えるんです。

羽生田さん そこで暮らす人たちが「シャッターが閉まってもいい」と考えているなら、私たちが無理やりまちを変える必要はないと思います。ただ、話をしていくと「どうしたらいいかアイデアがない」という場合もあるので、他の地区でうまくいっている取り組みを調べて提案したり、すでに活動をしている地域や民間の団体があれば連携できるように動いたり、相談に乗りながら一緒に伴走していくイメージです。

宮田さん どんなプロジェクトも必ず成果が出るとは限らず、まちづくりに成功もないので、経験がない場合などは我々が主導していくこともあります。そうしたときに信頼して受け入れてくれる自治体も多いので、その点、信州の方は人がいいと感じますね。

倉根さん 初開催のイベントが思った通りにいかなくても、それすらおもしろがる姿勢があるというか。「まあ、初めてのことでしょうがないね」と寛大なんです。「やってみただけダメだったじゃん」と文句を言う人が

一人もいないので「どこを改善したらうまくいかな？」と、次のアクションに移しやすいんです。

— 地元の人にヒアリングを重ねながら、トライアルを続けていくんですね。

倉根さん そうですね。それに、僕たちがいろんな人や自治体の間に入って、それぞれの声を聞く調整役のような役割もしています。たとえば、違う地域にまたがってワイナリーを巡るバスを走らせる企画をするなど、市町村同士では連携しづらい部分も、ある意味「県」の立場を使えばうまくつなげることができるんです。

「まちづくり」に正解はない

— UDC 信州での仕事に必要なことはなんだと思いますか？

倉根さん アンテナを高く張ることが求められる気がします。仕事以外で見聞きしたことや雑談がヒントになることもありますね。ちょっとした発見を日々みんなで共有しているんですよ。おもしろそうなイベントを見つけたとか、旅先で立ち寄ったマルシェがよかったとか。もはや職業病ですね (笑)。



羽生田さん 私はまだUDC信州に配属されて一年ですが、外に出かける機会は前よりも増えましたね。おもしろそうなイベントを見かけたら積極的に参加するようにしています。「仕事に役立つから行かなきゃ」というわけではなく、自然と街中で起きていることに対して目がいくようになったんです。でも、一日中家にこもってパンを焼くような日もありますよ。

倉根さん 「まちづくり」には正解がないんです。昔は、道を広くしたり、住宅を作ったりすればそれでよかったはず。でも今は、もっと多様な価値観が出てきたので、ただ道を広くするだけではなく、あいたスペースを利用してマルシェをする、古い建物を改装してお店を作るなど、新しい発想ができる。その中で、何をしたら地域の人たちが一番喜ぶかを考えるのが僕らの仕事。その地域に合った提案ができるよう、柔軟でありたいですね。



建設部都市・まちづくり課
(信州地域デザインセンター担当)

倉根明德さん

(入庁20年目 土木)



建設部都市・まちづくり課
(信州地域デザインセンター担当)

宮田駿介さん

(UR都市機構からの出向職員)



建設部都市・まちづくり課
(信州地域デザインセンター担当)

羽生田彩乃さん

(入庁6年目 行政)

これからの長野県をどうつくる？

世界一の健康長寿を目指す、信州ACE(エース)プロジェクト。

しあわせ暮らしの基礎となる県民の健康増進を図り、

「しあわせ健康県」づくりを進めるために行政・保健師・管理栄養士が

それぞれどういった関わり方をしているのか、聞きました。

エース 「健康」から長野県を変える、信州ACEプロジェクト

長野県民の健康寿命を延ばす

—健康増進課が取り組んでいる、信州ACEプロジェクトについて教えてください。

井口さん 信州ACEプロジェクトは「健康づくり県民運動」の名称です。ACEは脳卒中などの生活習慣病予防に効果のある「Action(体を動かす)」「Check(健診を受ける)」「Eat(健康に食べる)」を表しています。

山崎さん 僕たちの目指す最終的なゴールは「長野県民の健康寿命の延伸」です。平均寿命は単純に何歳まで生きたかの指標なのですが、健康寿命は「健康で、自立して生活できている期間」を表します。単に「長生き」を追求するだけでなく、一人ひとりが生涯にわたり尊厳と生きがいを持ち、その人らしく健やかに暮らせるための取り組みです。

井口さん 長野県民は「高血圧」の方の割合が高く、原因の一つに食塩の摂りすぎがあります。

牧野さん 減塩を推進するために、信州ACEプロジェクトの一つとして取り組んでいるのが、「ゆるしお」です。県民を変えるには、まずは県職員からということで、調理師会の方やACEプロジェクトに参画する調味料メーカーにご協力いただいて考案した減塩メニューを、県庁食堂で提供しています。



—長野県は、信州味噌や塩蔵など、昔ながらの食文化がありますよね。その意識を変えていくことは難しい不是吗？

山崎さん 「この味が好きだから」「ずっとこれを食べて



きたから」という声も大切にしながら、いかにプロジェクトを推進していくかが僕たちの課題です。

牧野さん 私たちとしても、毎年野菜を漬けているおばあちゃんに「漬物を食べちゃダメだよ」とは言いたくない。今できる方法で、健康に過ごしてほしいという思いがあります。そのために、食塩の多い食べ物を知ってもらう、香辛料を活用した薄味でも満足できる食事を提案するなどの工夫をしています。

山崎さん それでもなお、食塩摂取量には無関心な人もいます。たとえば、「健康イベント」と銘打って県民向けの普及啓発を実施しても、すでに健康意識の高い人しか集まらないことが多いです。なので、普段健康を意識していない人にも届くようなアイデアを出しながら、企画を立案しています。

—大学や一般企業、広告代理店など、県組織の外の連携も多いんですね。

山崎さん 信州ACEプロジェクトを推進するにあたり、賛同してくれる仲間を募りました。調味料メーカーや医療機関、スポーツ団体、飲食店など幅広く参画してくださっているんです。僕たちが一般企業から企画の提案を受け、一緒に事業を進めていくこともあります。



健康福祉部健康増進課

牧野光沙さん

(入庁7年目 管理栄養士)



健康福祉部健康増進課

井口美咲さん

(入庁6年目 保健師)



健康福祉部健康増進課

山崎真治さん

(入庁6年目 行政)

健康から、長野県をよりよく

—井口さんは保健師、牧野さんは管理栄養士と専門職ですよね。民間ではなく県職員として働くことを選んだのはどうしてですか？

井口さん 私は、保健師になる上で看護師の資格も必要だったので、そもそもどちらの道を選ぶか悩みました。私が保健師を選択したのは、保健師が「地域の看護師」と言われているからです。看護師は、患者さんとして病院に来た人をケアすることが中心。一方の保健師は、その前の段階に介入して地域の健康づくりに携わります。市町村にも保健師はいるのですが、広い地域に関わって各地域の特性を把握したうえで仕事がしたいと思ったので、県職員を選びました。

牧野さん 学生の頃、栄養調査について勉強していたんです。そのときに、長野県の栄養調査が全国的に進んでいることを知りました。長野県は調査によって県民の健康の実態を見続けて、事業に活かしてきたからこそ、健康



づくりへの意識を高めてこられたんだと思います。そこに管理栄養士として携われたらなという思いがありました。

—山崎さんが県職員を選んだのはどうしてでしょう？

山崎さん 僕は地元が長野県で、大学進学を機に一度、石川県金沢市に行ったんです。当時の金沢は新幹線が開通したばかりで街全体がすごく盛り上がっていて、とてもかっこよかった。長野県もいいところだと思っていたけれど、金沢の活気から見習うべき部分があるんじゃないかなと思って。だから自分の育った街をもっとよくするために、戻ってきました。

少しずつ地域を変えていく

—それぞれ、長野県をもっとよくしたいという思いがあって働いているんですね。実際に仕事をしていて手応えはありますか？

井口さん 県の保健師は、各自治体の保健師さんたちがどんなことで困っているのかをヒアリングして、それに合わせた研修会を企画することもあります。「参加してよかった、またやってほしい」と言ってくれれば、この方向性でよかったんだな、もっとよくしていこうと思えますね。

牧野さん 保健所勤務の時は、地域の食生活改善推進員の方々と一緒にお仕事をする機会が多いのですが、みなさんと「一緒に地域をよくしていこう」という思いで働けるのはうれしいですね。

山崎さん 行政職の仕事は本当に多岐にわたります。今の業務では、県としての課題を拾ってきて「こういう事業がしたいんです」と上司に提案する機会も結構多い。企画が通ったときはもちろん、事業効果の検証を通してよい反応をもらえたときはうれしいですね。自分の力が、長野県に対してどこまで影響力があるかはわかりませんが、少しずつ地域を変えていけるような仕事ができればと思います。

若手も活躍 技術系職種の仕事方

県民を支えるスペシャリストである、技術系の専門職員。高度な専門知識や技術が求められると同時に、県行政に携わるうえで必要となるのが事務処理の能力。技術系職種の彼ら彼女らが日頃どのような働き方をしているのか、聞きました。

総合土木

長野建設事務所 計画調査課

高山 恵里花 さん

(入庁3年目 総合土木)



長野県民の安全を守る仕事

地元の人々の声が励みになる

— 現在のお仕事について教えてください。

土木事業の測量・設計等を行い、事業を進める部署で働いています。道路を広げたり、川の護岸の改修をしたり、土砂崩れを防止するなど、土木事業を通して県民のみならず皆さんの安全を守る仕事です。

— 一日の仕事の流れを教えてください。

現場に行かない日は、朝8時半からメールチェックと事務仕事を行い、その後、業者さんとの打ち合わせ、午後からまた事務仕事に戻るといった感じですね。事務仕事というのは、設計等の業務委託を行うための書類作成や、説明会の資料作成などの業務があります。ただ、日によって仕事の流れもガラッと変わります。

飽き性な自分にぴったりの働き方

— 県職員を志望したのはどうしてですか？

学生の頃から土木の勉強をしていて、地元である長野県で土木の仕事をしたかったと思っていました。就活時は民間の会社も受けましたし、市か県かも迷いましたが、より



さまざまな仕事に関われるというのが県を選んだ決め手でした。私は飽き性なので、いろいろやってみたかったのも大きいです。

— 当初の希望は叶っていますか？

それぞれの所属で役割が違うので、幅広い業務に関われています。今は県職員になって三年目で、最初の二年間は長野建設事務所の整備課で土木工事の監督業務などをしていました。課が変わるだけでも仕事内容が大きく変わりますね。

わかりやすく伝えることの難しさ

— 実際に働き始めてからのギャップはありましたか？

さまざまな業者さんに業務をお願いしていくことはもちろん、地元の人とやりとりをする場面も多いので、コミュニケーション能力が必要な仕事だというのは働き始めてからわかった点でした。わかりやすく伝えることの難しさを感じています。

— 仕事をする上で、大事にしていることはありますか？

わからないことをそのままにせず、上司や先輩に報告するようにしています。1～2年目の頃は、わからないことが多すぎて、ただ「どうしたらいいですか」と聞いてしまうことが多かったのですが、今は自分の意見を持った上で相談をするようにしています。

— そういった相談はしやすい環境ですか？

公務員は黙々と働いているイメージがあったのですが、事務所は常に人の話し声が出て静か過ぎないので、相談しやすい環境です。上司や先輩、みなさんとコミュニケーションが取れていると感じます。働きだしてから感じた、いい意味でのギャップの一つですね！

社会福祉 子どもと周囲を橋渡しする

昔から子どもに関わる仕事を目指していたのですが、大学時代の学びを通して子どもを取り巻く環境や家庭への支援に携わりたいと思いました。県職員になる前は子どもや保護者と直接関わることの多いイメージでしたが、市町村や学校、病院、警察など、多くの関係機関と連携を取りながら、総合的に子どもや家庭への支援を行っています。日々、多くの相談が寄せられるなかでも、充てられる時間は限られています。それでも子どもの話にしっかり耳を傾ければ、子どもたちにとっての最善を考えることができると信じて、業務を行っています。

中央児童相談所
家庭支援第二課
関谷風結 さん
(入庁3年目 社会福祉)

農業 目指すは農業のよろず屋

幼少期、松本に住む祖父母の手伝いをきっかけに、農業に興味を持ちました。県職員を目指したのは、県職員であれば祖父母や多くの農家さんの苦労や負担を減らすサポートができると考えたからです。以前は農家さんと直接関わるのでできる普及業務に携わっていましたが、現在の業務は県職員同士でのやり取りが多いため、自身の関わる業務がどのような形で農家さんのためになっているのか、日々考えながら業務にあたっています。想像よりも業務の幅が広く、さまざまな経験ができる一方で多くのルールを覚える必要があります。こうした経験や他の部署での学びを生かし、ゆくゆくは農業分野のよろず屋を目指したいです。

農政部
農業技術課
木下琢麻 さん
(入庁4年目 農業)

林業 課題解決の答えは現場にある

県産材を多くの方に使ってもらう施策や、施策を行うための予算に関する業務を担当しています。当初は専門用語がわからず苦労することもありましたが「わからないことは自分で調べる」「つまずいたらすぐに助けを求める（大きめの独り言は周りが気づいてくれるのでオススメ）」、この二つを大事にしたおかげで、今ではどの打ち合わせもスムーズです。公務員といえば、デスクワーク中心と思われがちですが、実は現場にしか「課題解決の答え」はありません。今後も、さまざまな現場の方と言葉を交わしながら、自分にできることを模索していきたいです。

林務部
信州の木活用課県産材利用推進室
古澤宏章 さん
(入庁16年目 林業)

その他の技術系職種はこちらから



本当に働きやすいの？ 長野県職員働き方改革・DXの最前線

まだまだ「おカタイ」イメージが強く残る県職員の仕事。
しかし、現場ではすこしずつではありますが、着実に変化が生まれています。
県職員の働き方、DX推進の最新事情を聞きました。

土台を整え行動に繋げる仕事

— DX推進課の主な業務について教えてください。

相田さん 県組織内部のデジタル化を進めることはもちろん、各市町村から寄せられるデジタル化にまつわる相談に乗って、一緒に考えていく仕事をしています。

— DX推進課の発足以降、具体的に県職員の働き方はどう変わったのでしょうか？

相田さん まずは全庁にモバイルパソコンや「Microsoft365」を導入し、チャットでのコミュニケーションをはじめ、オンラインで資料の共有ができる土壌を整えました。WEBミーティングが行える設備も整え、在宅勤務を推進しています。

村田さん 私は昨年までIT系の民間企業に出向していましたが、県庁に戻ってきて、短い間にこれだけ変わるのかと驚きました。IT企業と比べても遜色ないデジタルインフラが整ってきていると感じます。

誰もがよりよく働けるために

— 今後DX推進課が取り組んでいきたいことはなんですか？

村田さん 導入されたツールやシステムを、誰もが自分の仕事に活用できるようにしたいです。「DX推進課だからできるでしょ？」と感じたり、触れたことのないツールに戸惑ったりする方は少なくないと思います。だからこそ、一度使ってみることで「なんだ、意外とできるじゃん！」と実感しながら、納得したうえで今の仕事のやり方をよりよい方向に変える手助けをしていきたいです。

相田さん DXは一部の人が進めるのではなく、いかに自分ごととして受け止めてもらえるかが大事だと思います。対面や紙を前提とした仕事では、子育てのために在宅勤務をしたい人や、なんらかの理由で同じ時間、同じ場所で働くことのできない人が働きにくくなってしまいます。それはもったいないことですよね。DX推進はツールやシステムを使い倒して、みんなで働き方をよくしていくもの。そう実感してもらえよう「伝える工夫」をしながら地道に頑張ります！



企画振興部 DX推進課

相田貞晃 さん

(入庁21年目 行政)



企画振興部 DX推進課

村田ひなの さん

(入庁5年目 行政)



県職員の働き方や組織風土を改革するべく立ち上がった「かえるプロジェクト」。
全庁を巻き込んだ新プロジェクトの取り組みについて聞きました。



明るく楽しく前向きに働くために

— 現在、長野県職員の働き方や組織風土を変えるためにされている取り組みがあると聞きました。

滝澤さん 県民の皆さんの真に役立つ組織となるため、また県職員が明るく楽しく前向きに働くために、令和5年から「かえるプロジェクト（以下、かえプロ）」と名付けた組織風土改革のプロジェクトに取り組んでいます。

— どのようなメンバーがこのプロジェクトに参加しているのですか？

日詰さん メンバーには若手職員だけではなく、部長や課長など幹部クラスの職員も参加していて、上司・部下関係なく県組織全体を巻き込んだプロジェクトです。さらには、外部の有識者の方をアドバイザーとしてお招きして情報やアドバイスをいただきながら、組織内部の意見だけではなく、組織風土のあるべき姿について検討を進めています。僕たちコンプライアンス・行政経営課は、事務局としてプロジェクト全体の取りまとめを担っています。

滝澤さん これまでに議論を重ねた中で、目的達成に向けた課題として「①目標・意義の共有」「②DX推進を含めたしごと改革」「③職場環境の改善」「④キャリア開発・人材活用」の4つが挙げられました。現在はこれら課題の解決に向けて、具体的な解決策の検討を進めているところです。

問題提起で終わらない改革を

— 「若手がなにかやっているな」で終わらせない、全体を巻きこんだプロジェクトなんです。

日詰さん まさにそこなんです。これまでも働き方改革的な動きはありましたが「何をしているのか」が組織全体に広まることなく終わってしまうことがありました。このプロジェクトでは、いかに多くの職員を巻き込んで「自分ごと化してもらうか」を大事にしています。

滝澤さん 前例踏襲的な組織風土や人の行動意識を変えていくことは難しい。それでも、「このままでいいのかな？」「変えたほうがいいよね」と思っている人たちはいるはず。実際に職員向けのポータルサイトには、100件以上のコメントが寄せられており「かえプロ」に期待している人、興味を持っている人が増えているのかなと思います。まずはこうした層から巻き込んでいって、多くの職員に共感してもらい、県組織の組織風土をよい方向へ変えていきたいです。



総務部コンプライアンス・行政経営課

滝澤啓一 さん

(入庁5年目 行政)



総務部コンプライアンス・行政経営課

日詰文太 さん

(入庁5年目 林業)

職員の経験や熱意を
活かした
キャリア形成を支援
20%ルール

長野県が実施している創造的活動支援制度の通称。勤務時間の20%以内を上限として、職員が持つ知識や経験、これまで培ってきた専門性を活かして自分の所属以外の業務に関わることができる制度。
職員のキャリア形成やモチベーションの向上につなげることを目的に令和4年度から導入。

県職員に聞いてみた！

●●ベスト3

Q. 県職員でやりがいを感じた瞬間は？

- 1 県民の方から感謝されたとき
- 2 成果物が完成したとき
- 3 イベントなど企画をやりきったとき

ほかには、「自身が中心となって事業を動かしていると実感したとき」や「県民生活のためにできていると実感したとき」などの意見がありました。

公務員に対して「決まった仕事を行う」イメージをもっていた人のほとんどが、その業務の多様性にギャップを感じたようです。

Q. 県職員になって大変だったことは？

- 1 業務の量
- 2 クレーム対応
- 3 災害対応

Q. どんな人が県職員に向いてる？

- 1 コミュニケーション能力が高い人
- 2 変化に敏感・変化に対応できる人
- 3 コツコツ、時に辛抱強く物事に取り組める人

想像以上に庁内外の人とのやりとりや調整など、コミュニケーション能力を必要とする場面が多い様子。また、時代の流れや部署の異動などさまざまな変化に対応できる人は県職員に向いているようです。

Q. 福利厚生の中で魅力的なのは？

- 1 休暇制度が充実しているところ
- 2 カフェテリアプランなどの給付制度
- 3 資格取得支援(自己啓発支援)メニューの豊富さ

有給休暇が1時間単位で取得できるなど、休暇が取りやすいところを魅力と感じる職員が7割以上と、圧倒的な結果に！

民間企業から転職してきた人からすると、休暇制度の充実度合いや休暇を取得しやすい空気感などに働きやすさを感じるようです。また、福利厚生の豊富さに公務員の大きなメリットを感じる人も。

Q. (転職経験者に聞きます) 県職員になって働きやすいと感じるポイントは？

- 1 休暇が取りやすい
- 2 福利厚生が充実している
- 3 ジェンダー格差や女性と男性の評価に差がない

Q. 県職員になる前と後で、県の仕事や職員に対する印象は変わりましたか？

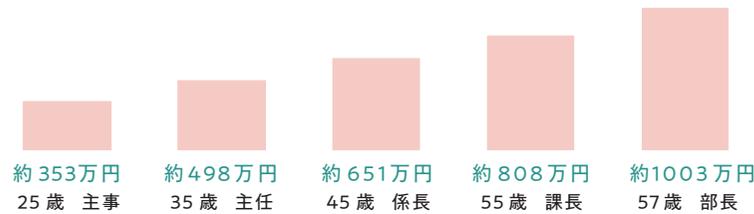
変わった 77%
 変わらない 23%

- ルーティンワークばかりではなく、自分で考えることやクリエイティブな発想を求められることが多い
- 単純な事務作業がメインだと思っていたが、思った以上に業務は多岐に渡る
- 真面目な人の多いイメージだったが、意外とフランクな人が多い
- 毎日定時退勤だと思っていたら、残業も発生する

このような意見が多く、いわゆる「公務員」のカタイイメージとのギャップを感じた人が多いようです。

長野県職員のリアルデータ

モデル給与



+残業代 本庁の場合
平均約20時間/月(R4年度実績)、
通勤手当、住居手当、
扶養手当、児童手当など

手当

住むところ（住居手当/職員宿舎）

- ・民間のアパートなどを借りて生活する場合に支給（上限27,700円/月）
- ・職員宿舎
県内各地に充実
例：世帯用 月額3万円程度
単身用 月額1万円程度

通勤手当

- ・自宅から勤務先まで交通機関や、車・バイク（自転車含む）などの交通用具を使って通勤する場合に支給
交通機関：定期代の額
交通用具：距離に応じて支給

赴任時に支給される手当（赴任旅費）

- ・採用されたとき、異動のときなど、引越しを行う場合に支給
引越業者費用（距離に応じて上限有）、交通費、家を借りる場合の礼金及び不動産手数料（上限有）などを支給

福利厚生

- ・カフェテリアプラン
余暇活動や健康管理のための活動費用を助成（上限15,000円または13,000円）
- ・健康管理
人間ドック費用一部補助、子宮頸がん検診や糖負荷検査などの検診が無料
- ・資格取得支援
対象の資格を取得するための検定費用などを補助

勤務時間・休日・休暇

勤務時間

8:30 ~ 17:15
(うち休憩1時間 実労働時間：7時間45分)

- ・時差勤務制度
(上記の勤務時間を前後にずらしての勤務が可能。育児や介護など、さまざまな状況に合わせて使いわけができます。)

休暇制度

- ・年次有給休暇(年20日/4月新規採用者は15日1時間単位で取得可能)
- ・夏季特別休暇(5日間)
- ・結婚休暇(連続7日間)
- ・産前・産後休暇(出産前後各8週)
- ・育児休業(子が3歳になるまでの間)など

休日

完全週休2日制
(原則として、休日は土・日・祝日および年末年始)

産休・育休制度

女性の場合

産休：出産予定日の前後8週間取得可能
育休：子が3歳になる前日までに2回取得可能

男性の場合

出産補助休暇：3日間
育児参加休暇：5日間
育休：出生後8週間以内に2回、子が3歳になる前日までに2回の最大4回取得可能

研修制度

長野県では、職員が主体的に学び続けるとともに、集団としての意識と能力を継続的に高め、伸ばし続ける「学ぶ県組織」への転換を目指しています。

職位に応じたキャリア形成研修など、多様なカリキュラムが用意されています。なお、新規採用職員に対しては、配属先の先輩職員等がOJTトレーナーとなり、必要な指導・助言を行っています。

<主な研修>

- ・キャリア形成研修
- ・マネジメント研修
- ・自己啓発支援制度 など

異動・配属

3~4年ごとに異動があり、県内各地でさまざまな経験を積むことができます。

Aさんの場合（行政職）

伊那建設事務所（伊那市）→教育委員会事務局（本庁）→民間企業への研修派遣※→企画振興部地域振興課（本庁）→佐久地域振興局商工観光課（佐久市）→企画振興部信州暮らし推進課（本庁）→農政部農業政策課農産物マーケティング室（本庁）

キャリアチャレンジ制度

中央省庁・民間企業・市町村等への研修派遣への応募※、または職員が主体的に考えたキャリアデザインに基づき、自身の強みや取り組んでいることをアピールし、希望する県庁各課への異動にチャレンジ可能です。

※今後のキャリアを考えるうえで、「民間での経験が自身の強みになるはず」と考え、民間企業への研修を希望しました



※研修派遣先（R5年度実績）
国：総務省、文部科学省、厚生労働省、経済産業省、国土交通省
民間企業：ソフトバンク(株)、三井物産(株)、丸紅(株)等
そのほか県内市町村 など

試験申し込みから内定までの流れ

申し込み

・受験案内、県HP等を確認し、申し込みフォームから申し込み
※専用ページのマイページ登録が必要です。

試験・選考

・筆記試験、口述試験等を受験
※各試験・選考によって内容が異なります。

合格

・最終合格者は「採用候補者名簿」に記載されます
※名簿有効期限は合格発表の日から1年間

内定

・採用候補者と任命権者との面談を行ったのち内定

よくある質問

受験前

試験対策・試験後

Q. 大卒程度試験は大学を卒業、または卒業見込みでなければ受験できませんか？

A. 所定の年齢要件を満たしていれば、どなたでも受験することができます。学歴が合否に影響することはありません。ただ、職種によっては免許などを必要とする場合があります。

Q. 複数の試験を受験してもよいですか？

A. 複数の試験への申込みは、一部を除きできません。詳しくは各試験の受験案内をご覧ください。

Q. 県外の出身者は採用において不利になりますか？

A. 採用試験は、地方公務員の平等取扱いの原則に基づき実施していますので、出身地や出身校、性別、年齢などによって有利・不利になることはありません。

Q. 公務員試験では、どのような試験が行われますか？

A. 大学卒業程度試験の場合、一般的な知識や知能を問う「教養試験（行政 A[一般方式]のみ）」と試験区分に応じた専門的知識を問う「専門試験」を実施しています。また、より多くの方に受験いただけるよう、一部の試験では、民間企業の採用試験でも使われる問題を使用し、「専門試験」の代わりに自らの経験や実績等をアピールする試験を取り入れています。

Q. 過去の試験問題は公表されていますか？

A. 教養試験および専門試験で出題するものと同程度の問題を「例題」として公表しています。また、論（作）文試験及び大学卒業程度試験のグループワークの課題についても、ホームページで公表しています。科目別出題数や試験問題の形式については、各試験の受験案内をご覧ください。

Q. 試験の詳細はどこで確認できますか？

A. 長野県ホームページに各試験の受験案内を掲載していますので、ダウンロードのうえご確認ください。



Q. 勤務地や職務内容についての希望は、どのくらい通りますか？

A. 新規採用者の場合は、意向確認の打ち合わせの際に希望を伝えることが可能です。また、定期の人事異動に関しては、年に一回、全職員を対象に希望調査を行っています。ただし、必ずしも希望どおりになるとは限らないため、興味の幅を広げ、柔軟に職務に対処できるような心構えも必要です。また、職員の意欲や能力を引き出すため、特定の業務への従事を希望する職員の募集（組織内公募）も行っています。

Q. 試験の最終合格をもって内定となりますか？

A. 試験に最終合格すると、採用候補者名簿に記載されます。その後の採用手続きは、各任命権者（知事など）が行います。近年の状況としては、本人辞退等を除き、合格者全員が採用されています。なお、欠格条項に該当する場合には採用されません。

採用に関する詳しい情報は、職員募集総合サイトならびに各 SNS などをご確認ください。



長野県庁採用公式 note
<https://nagano-pref.note.jp/>

→県庁のナカの人が県庁の魅力や職員のホンネなどをお届けしています



長野県庁採用 Twitter
https://twitter.com/Nagano_saiyo

→採用に関する最新情報はこちらをご覧ください



長野県職員募集案内
<https://www.pref.nagano.lg.jp/jinjii/kensei/soshiki/soshiki/boshu/index.html>

→県職員募集に関する情報はこちらの総合サイトをご確認ください



長野県人事委員会事務局任用係

TEL : 026-235-7465 FAX : 026-235-7492 MAIL : jin@pref.nagano.lg.jp

長野県庁 〒380-8570 長野市大字南長野字幅下692-2 TEL : 026-232-0111 (代表)

2023年8月発行